

## 発信力を育成する英語科学習指導

～「書くこと」における指導過程の工夫を通して～

うるま市立津堅中学校 山里 梨穂

### I テーマ設定の理由

平成20年中学校学指導要領解説外国語編における改訂の趣旨に、「自らの考えなどを相手に伝える為の『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある文章を書く力を重視する」と示されており、実際のコミュニケーションの中で、英語を運用する力、自分の思いを相手に伝える力を育成することが、今後の英語教育に求められていると考えられる。

平成22年度沖縄県学力到達度調査において、4領域の正答率を見てみると、聞くこと77,4%, 話すこと64,8%, 読むこと51,0%, 書くこと46,4%となっており、「聞くこと」「読むこと」の理解の領域に比べて、「話すこと」「書くこと」の表現の領域において課題が見られた。また沖縄県全体、そしてうるま市の結果からも、「書くこと」の領域において落ち込みが一番大きいことがわかった。

そこで、本校独自のアンケートを実施分析してみると、生徒全員が「書くこと」を一番苦手としており、その理由として「英語でどう表現していいかわからない」「単語が分からない」等と答えている。

これまでの指導を振り返ると、「話すこと」「書くこと」の表現の指導においては、与えられた日本語を英語に訳すという、日本語英訳のスタイルが中心であった。基本文を徹底させるという面から定着は見られたが、「自分の考えを相手にわかりやすく伝える」という指導の工夫が十分でなかったと考える。

この課題を解決するには、自分の考えをまとめ整理し、相手を意識して分かりやすく伝える為の思考力・判断力・表現力を高めていかなければならない。そのためには授業スタイルを改善し、自分の考えを英語で発信するという言語活動を指導過程の中に取り入れる事が重要であると考えられる。

そこで本研究では、「書くこと」の言語活動の一環として、スキット・スピーチ活動を取り入れ、実際の場面や相手を明確にしなが、自分の考えや思いを書く場を設定する。そして、取材・整理・推敲等の「書くこと」の手順を明確にした「3Cシート」を取り入れることで、より具体的に相手に伝えることができるであろうと考える。その一連の活動の中で、ペア活動を取り入れ互いに意欲を高めていくことで、自分の考えや思いを発信する力を育成できるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

「書くこと」の指導過程の工夫を通して、自分の考えや思いを英語で伝える発信力を育成する。

### III 研究仮説

#### 1 基本仮説

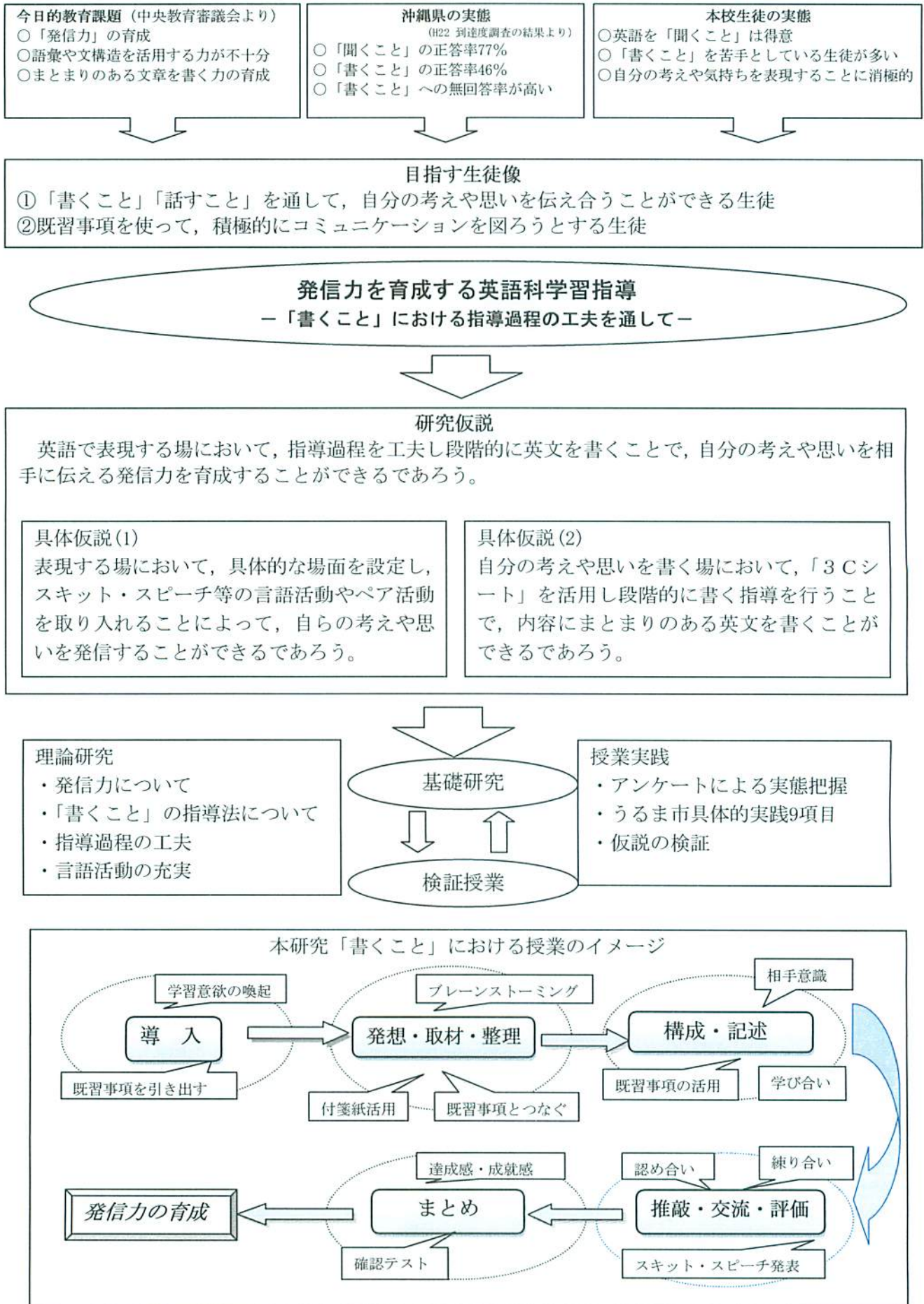
英語で表現する場において、指導過程を工夫し段階的に英文を書くことで、自分の考えや思いを相手に伝える発信力を育成することができるであろう。

#### 2 具体仮説

(1) 表現する場において、具体的な場面を設定し、スキット・スピーチ等の言語活動やペア活動を取り入れることによって、自らの考えや思いを発信することができるであろう。

(2) 自分の考えや思いを書く場において、「3Cシート」を活用し段階的に書く指導を行うことで、内容にまとまりのある英文を書くことができるであろう。

## VII 研究の全体構想





## IV 理論研究

### 1 発信力とは

#### (1) 学習指導要領における発信力について

中学校学習指導要領において外国語科の目標は以下のようになっている。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

外国語を通じて①異文化理解②積極的なコミュニケーションの態度の育成③4技能をバランスよく育成することが必要であり、これは単に外国語の文法規則や語彙などの知識を身につけさせるだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養うことを意味している。

渡辺寛治(2010)は、今後の小・中・高等学校の外国語教育で育む資質・能力について「まず、話し手や書き手が自分の考え、思い、意図、意思などを持つことが大切である。なぜなら国際的なコミュニケーションの場では、常に自分の考えを発信することが求められているからである。そのうえで、相手に論理的かつ具体的に分かりやすく伝えなければならない。」と述べている。

そこで本研究では、発信力を「コミュニケーションの場において、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝える力」と捉えた。表現の方法には「書くこと」「話すこと」と2つの領域があるが、本校の課題も克服すべく「書くこと」に焦点をあてていく。また、「書くこと」は知識の総動員ともいうように、自分の中にある考えを生み出し、表現し、吟味していく過程で、「発信力」の育成に必要な思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

#### (2) 発信力の構成要素

本研究では、中学校で育成する「発信力」を支える構成要素として、主に次の3つを柱として捉えている。また、具体的な活動内容を一緒に示すことで、より本研究が明確になると考え、下の図1のようにまとめた。

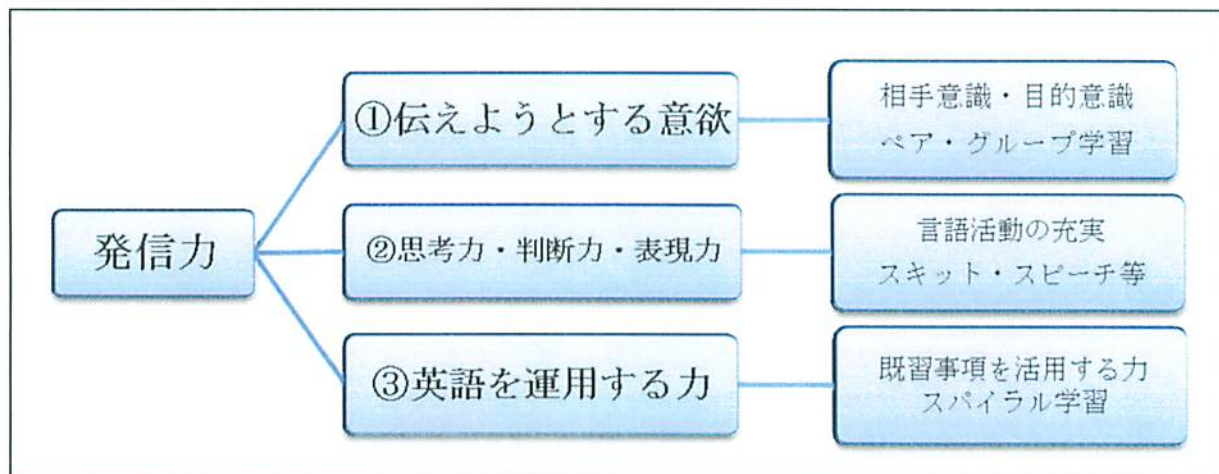


図1 発信力の構成要素

#### ① 「伝えよう」とする意欲

まず初めに、生徒の「伝えたい」「書いてみたい」という意欲を喚起しなければならない。その為、活動の前には場面設定を明確にし、自分の考えや思いを伝える相手と、その目的を生徒に示すことが重要である。その際には、より実生活に近い切実感のある場面を想定し、必然的に英語を使う活動を仕組んでいくことで、意欲が高まるであろうと考える。また、発信力の育成には共同学習（ペア・グループ）活動が重要であると考えている。実際のコミュニケーション



ョンは常に双方向性であり、ただ自分の意見を述べるだけではなく、相手の立場になって考える力・相手の考えを理解する力を普段の授業の中で身につけさせていくことが大切である。お互いに意見を交換する中で自分の考えを引き出し、自分の考えを確立させていくことが発信力には必要である。このような双方向性の経験は、実際のコミュニケーションの場での他者理解や異文化理解を促し、発信力の涵養にも繋がるのではないかと考える。「相手が自分の言葉に一生懸命耳を傾けて話を聞いてくれたという感激は、自尊感情を高める」(三浦孝 2006) というように、生徒の心情面に大きな自信を与えることも期待される。

② 発信力を育成する言語活動

中学校学習指導要領総則では、生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、言語活動を充実させることが重要であると述べられている。言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、豊かな心を育むうえでも、言語に関する能力を高めることが求められているのである。国際的なコミュニケーションの場では、さまざまな国の人々を相手に、自分の考えや思いを発信していかなければならない。その相手の文化を、豊かな心を持って尊重し、コミュニケーションを成立させる為にも、普段の授業で言語活動を充実させることは重要である。

しかし井上一郎 (2012) は、現在の言語活動について「新教育課程の中で重視はされてきたが、充実するまでには至っていない」としており、言語活動を充実させる為、より重視しなければならないのは「思考-判断-表現」などのまとまった各要素の連続体であると述べている。本研究では、この一連の流れを一つの活動として授業に取り入れることが、言語活動の充実に関わると考える。その具体的な活動例として、自分の書いた英文を実際の場面を想定したスキット (英語寸劇) やスピーチ通して発表する「書くこと」と「話すこと」を関連させた指導が挙げられる。

本研究では「書くこと」を中心としているが、その書いた文を「話すこと」を通して実際に音声で表現することで、言語活動がより充実し発信力を高めることができるのではないかと考えた。下の図2はスキットの有効性を表したものである。

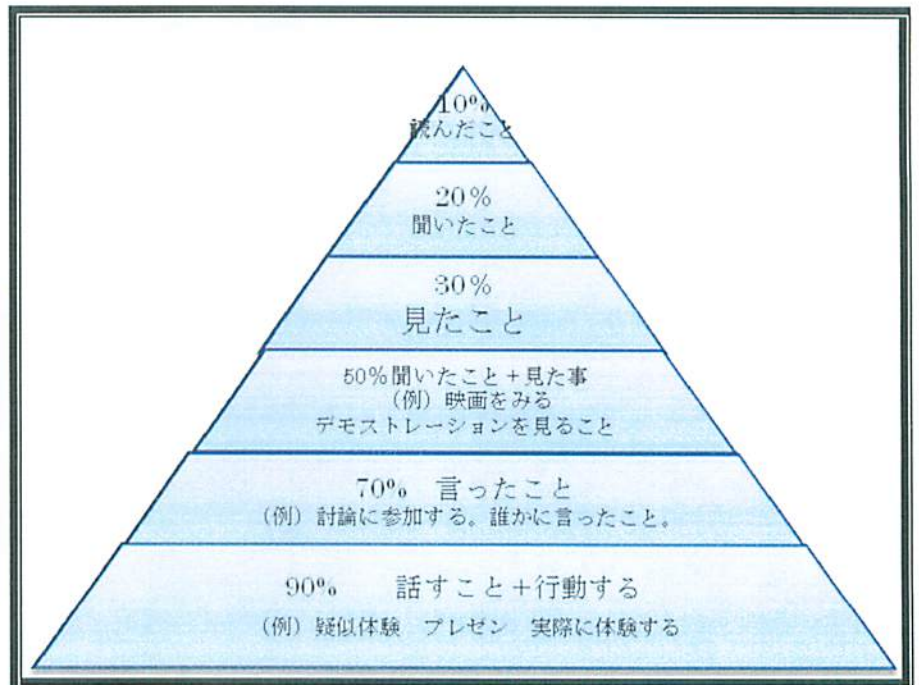


図2 「経験の円錐」

Edgar Dale Cone of experience 「After two weeks we tend to remember」

図2は、エドガーデールによる「経験の円錐」を日本語に訳したものである。学習者は2週



間後に何を覚えているかを表しており、ロールプレイなどの「疑似的な体験」は90%と記憶の定着としては高い。つまり実際に起こりうる場面を意識して、自分の考えを整理し相手に伝えるように表現する言語活動を取り入れることは、言語材料の内在化を図る上でも効果的であると言える。

### ③ 既習事項を活用する力

矢野淳(2011)は、「日本語で深く考えてたどり着いた結論やその理由を、多少内容のレベルを落としてでも『いかに英語で伝えるか』につながる思考をさせることが英語科では求められる。」そして、「手持ちの英単語で、発想を転換して何とか言い表すスキルも育成したい」と述べている。例えば、"Veterinarian"は日本語で「獣医」を表す単語だが、"a doctor for animals"と優しく言い換えた方が、中学生間のコミュニケーションとして成り立ち、この発想の転換こそが重要であると説いている。中学生の語彙力では、言いたい事を言い表せず壁にぶつかることも多い。しかし、わからない単語や表現に対しても、既習事項や単語を組み合わせながら発信する経験を、普段の授業の中でさせていくことが重要であると考えられる。

なお、英語の授業における言語活動の取り扱いについて、平田和人(2008)は、「使用の中で理解させ、さらに使用させる」という双方向の指導が求められていると説いている。従来の指導では、ドリルなどで言語材料の理解を図り、定着させてからコミュニケーション活動へとつなげていくことが多かった。しかし、平成19年4月実施の全国学力検査結果によると「知識・技能を活用する力が身につけている子どもは基礎的・基本的な知識・技能をも定着している傾向があるが、知識・技能が定着しているからといって、それらを活用する力が身につけているとは限らない」ということが明らかになった。

このことから、発信力の育成には、これまで学んだ知識・技能を活用するような課題を、教師が意図的に設定し、活用させながら知識技能を身につけさせる必要がある。また、これらの上に、スパイラル的に新しい知識が積み重なっていくように指導することが重要である。

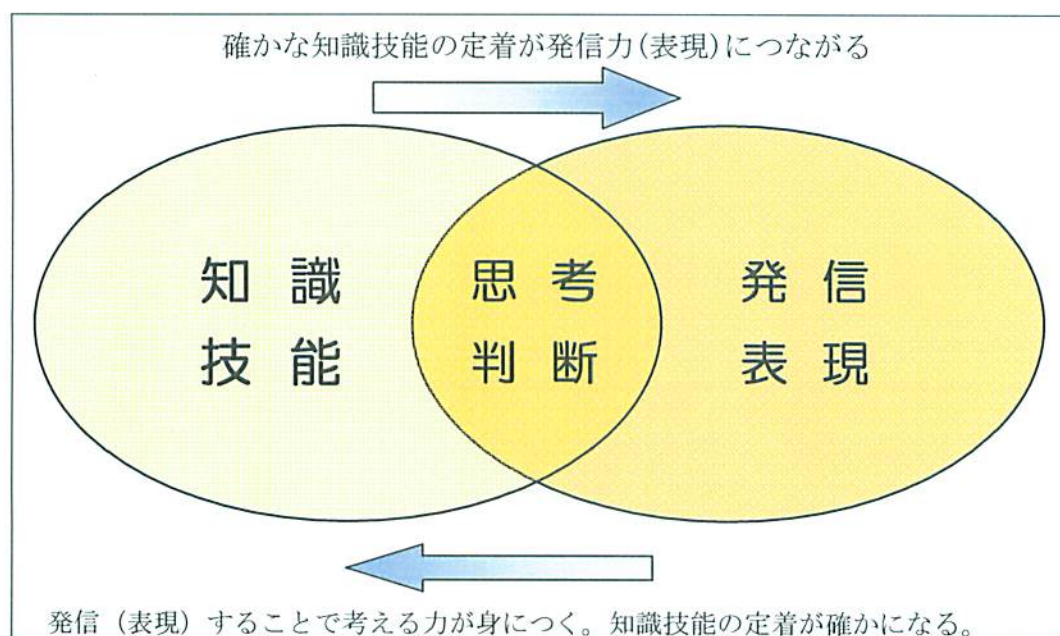


図3 発信力と知識技能を関連させた授業のイメージ

## 2 英語で「書くこと」について

### (1) 「書くこと」の意義

「書くこと」について相澤秀夫(2009)は次のように述べている。

「書くこと」は自分と向き合うことであり、自分を確かめる行為であること。例えば筋道を立てて考える理論的な思考も創造を広げる拡散的な思考も、文字として書きあらわすことによって整理され明確になる。このように考えると、言語活動の中核に「書く活動を」位置づけることの大切さが理解できよう。ノートは子供の思考・判断・表現の「運動場」なのである。

このことから「書くこと」の重要性が伺える。また、自分の考えを書き出し仲間と交流することで思考を広げ、最後にまとめとして自分の考え書くことが、自分の考えを深めることにつながるのである。発信力を育成するためには、これらの活動を通して言語活動の充実を図っていくことが重要であると考えられる。

### (2) 学習指導要領外国語科における「書くこと」について

中学校学習指導要領において「書くこと」の指導事項として、次の5つが挙げられている。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

ここに示されている「自分の考えや気持ちを英語にする」「文と文のつながりに注意して」とは、英語学習初期段階の中学生にとっては、少し難しいと思われる。その為、最終目標へ至る道のりとして、スモールステップを踏んだ指導が重要であると考え、学習指導要領を参考に中学校終了時まで身に付けさせたい力と、各学年の目標を段階的に設定した。下記は、「書くこと」における中学校の3年間を見通した学年目標や指導項目を、表記と内容に分け下のように整理したものである。

表1 「書くこと」における3年間の目標と具体内容

	学年目標	内容に関すること	表記に関すること	具体的な活動例と目標語数
一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分自身や身の周りのことについて、文の構成を考えながら書くことができる。</li> <li>○楽しんで書く活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単なメモを取ることができる。</li> <li>○自分自身や第三者について紹介する。</li> <li>○与えられた視点に沿って文を書く。</li> <li>○内容にまとまりがある。</li> <li>○相手を意識した文章である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大文字・小文字の区別</li> <li>○疑問符・感嘆符などを適切に使う。</li> <li>○正しい語順で書いている。</li> </ul>	自己紹介 他者紹介 Show & tell  45words
二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えや気持ちを、理由含めて、文の構成も意識しながら書くことができる。</li> <li>○接続詞を使って、文と文をつなぐことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の体験について詳しく書く。</li> <li>○自分の考えや意見を書く。</li> <li>○文の中に理由や根拠を表す文がある。</li> <li>○英文の文章構成を意識して文を書く。</li> <li>○5W1Hの視点で文をかく。</li> </ul>	1年生の内容に加えて <ul style="list-style-type: none"> <li>○because/soなどの接続詞を使っている。</li> <li>○I think/I agreeなどを使っている。</li> </ul>	日記 旅行体験記 スピーチ  70words
三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○与えられたテーマについて、自分の考えや意見を、根拠となる理由や説明も含めて、論理的に書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み手を意識して、自分の体験や意見について書く。</li> <li>○論理的に首尾一貫した文を書く。</li> <li>○英文の文章構成を意識して文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容に応じた文章構成である。</li> <li>○接続詞や副詞、代名詞などを使ってかく。</li> </ul>	オリジナルスキット デイバート  100words

### (3) 日本語と英文構成の違い

遠田和子 (2011) は、英語で文章を書く際には、日本特有の「起承転結」ではなく、英語のエッセイの構成である「序論→本論→結論」で書くことが大切とし、この間、趣旨があくまで一貫して論理的であることの重要性を説いている。また、渡辺 (2011) は、「今後、中・高等学校の speaking や writing などの言語活動では、英語特有の首尾一貫性 (coherence) を重視したコミュニケーション活動を行う必要がある」と説いている。また日常会話やスピーチに等における論理性 (logicality) として、次の3つをあげていることから、英文での構成方法と合わせて、以下のようにまとめた。

表2 英文の構成方法と日本語での具体例

構成順	具体的内容	日本語での具体例
序論	①トピックセンテンスを述べる。	僕の一番好きなスポーツはスキー！
本論	②トピックセンテンスをサポートする複数の文を述べる (理由, 根拠・事実などを具体的に)	好きな理由は2つあります。 まず、雪が好き！子供のころから雪と遊ぶのが好き！次に、白銀の世界を滑る感覚は最高！
結論	③結論を述べる。	だからスキーが一番好き！スキーは生涯の友！

### (4) 自分の考えや思いを英語で「書くこと」の手立て

書く力をつけるための効果的な指導法を探るため、アンケートや諸テストの結果を分析し、つまずきの原因をまとめた。主なものとして、①アイデア (書く内容が思いつかない) ②語彙・文法事項に関すること (書きたい内容を英語で表現できない) ③文章構成 (どのように書いたらいいかわからない) の3点である。つまずきの原因を解消し、書く力を高めるためにも、手立てを講じる必要があると考えた。そこで本研究では、文章を書く過程に沿って、その際に必要な手立てとして次の事に留意する。

表3 英文を書くための活動内容と具体的な手立て

	活動内容	主な指導の手立て
発想 取材 整理	○必要な情報を読んだり聞いたりする。 ○アイデアをメモにする。 ○自分の考えを整理する。	・文章を書くときの視点を与え、それを基にアイデアを固めていくよう支援する。 ・ペア活動を取り入れ意見交換する。
構成 記述	○場面や状況に応じ、書く目的や読み手を想定して書く。 ○内容のメインテーマを意識する。 ○文章構成を意識し、文の組立てを考える。	・使ってほしい表現やモデル文を、教師が提示する。 ・テーマにあった文章構成を提示する。
推敲	○書いた文章を読み返し、スペルや用法等を確かめて、読み手に分かりやすい文章に書き直す。 ○文と文のつながりなど、論理的な展開を確かめ、読み手に分かりやすい文章に書き直す。	・押さえておきたいポイントを明確にし、チェックリストを作成する ・生徒同士による推敲 ・教師によるコメント書き、添削
交流 評価	○書いた文を発表する ○自己評価	・発表を聞いて、お互いにコメントを書く (ペア同士・生徒教師間)

### 3 指導過程の工夫

#### (1) 学習指導要領における指導過程について

中学校学習指導要領総則の中では、「生徒が学習している事柄について、事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりすることで、学習内容の確実な定着が図られ、思考力・判断力・表現力の育成にも資するものとする」と明記されている。単元や授業の流れを明確にし、その各段階で具体的な活動を生徒に示すことは、生徒の思考を整理し、どの段階で生徒がつまづいているかを把握する為にも重要な役割を果たすと考えられる。

#### (2) 3Cシートについて

本研究では、生徒が論理的に思考し、内容にまとまりのある英文で発信できるように、「書くこと」における指導課程を「Collect information①発想②取材③整理, Compose④構成⑤記述 Check⑥推敲⑦交流⑧評価」とした。それぞれの活動の最初の文字が、アルファベットのCで始まることから、「最初のC」「書いてみようのC」「書いた後のC」とする。活動内容を明確にし、それをシートにすることで、生徒は示された順序に沿って思考を整理しながら書き進めていくことができると思う。

表4 「3Cシート」の内容

<p>①最初のC Collect information 発想・取材・整理</p> <p>まず「書く前のC」では、情報を集めてメモにし、整理する作業をおこなう。生徒はブレインストーミングや必要に応じて取材をすることで、「書くこと」に必要な情報を収集することができる。本研究では、その活動の際に、付箋紙を活用していくことが効果的だと考える。付箋紙の利点として、次の3つの事が挙げられる。一つ目に、付箋紙には思った事を短い言葉で文字にする為、生徒にとって、書くことへの抵抗を減らす事ができる。また二つ目に、文章の構成を考える時に、付箋紙の位置を変えることで生徒の思考を促すことができる。三つ目に、付箋紙の量が増えることで、生徒の書く意欲も高まることが期待される。</p>
<p>②「書いてみようのC」 Compose 構成 記述</p> <p>この段階では、メモをした情報を英文にし、その文と文をつなぎ合わせて文章を作っていく。既習事項をどう活用するか、どうすれば相手に伝わるのかを思考・判断しながら文章にしていく作業である。またその際に、文章構成の例を示しておくことで、内容にまとまりがでると考えられる。今回は英語特有の文の書き方である Come straight to the point (結論が先) →Concrete (具体的に) →Conclusion (まとめ) を「書いてみようのC」として取り入れる。その他、メールやあいさつ文を書く際など、その内容に合った文章構成を指導していくことができる。</p>
<p>③「書いた後のC」 Check 推敲・交流・自己評価</p> <p>書き終わったら、まず自分で推敲 Check する。そしてペアの文章も推敲し、相手に伝わるかどうかを考え、お互いに意見を交わす。また推敲する際に、推敲の視点を表したチェック項目を用意することで、英語が苦手な生徒にもできるよう配慮する。その後、教師によるチェックを終えて生徒は清書に移る。</p> <p>次に、書いた英文を発表する (Challenge) に取り組む。内容に合わせてスキットやスピーチ等を取り入れ、生徒が意欲的に取り組むよう工夫する。また教師は、生徒が自信を持って発表できるように、練習の時間を確保し、発音のチェックやジェスチャーの指導等をおこなう。</p> <p>そして最後に発表を聞いて、生徒間そして生徒と教師間で、お互いにコメントを交わす交流の (Comment) である。発表を通して分かったことや、互いに良いところを見つけ、認め合い、励まし合うことで自信をもたせ、発信することへの意欲を高めることをねらいとしている。そして最後に自分自身へのコメントである自己評価をし、教師にシートを提出するようになっている。</p>



(3) 「3Cシート」の実際

図4・5は、「3Cシート」の実際とヒントカードである。図4のように最初を書く作業の流れを示すことで、生徒に学習の見通しを持たせる。

**🌟目指します!**  
英語でスラスラ文が書ける自分ってかっこいい!

そのためには、文の書き方を学んでみよう!

①はじめの C  
Collect information and Memo! 情報を集めてメモしよう!

②書いてみようの C  
Compose 相手にわかりやすく伝えるように考えよう!

Come straight to the point! (最初に結論)  
Concrete (具体的に)  
特徴、事実、情報などなど  
Conclusion(まとめ)

③書いたあとの C  
Check! パートナーや先生にチェックしてもらおう!  
Challenge! 発表に挑戦しよう!  
Comment! 分かったことや動きのコメントを書こう!  
自己評価

図4 「3Cシート」ガイド

**★Hint card★**

①「〇〇さんは～です」と特徴を言いたいときは  
Go back to notebook p12

②相手の好きな食べもの・スポーツとかの単語を調べたいときは  
Go to the textbook p106~110 🍓

③紹介する人物の特技を表現する方法  
「～できる。～が得意です」の単語を思いだして!

☆あなたしか知らないその人の良いところを見つけてあげてください!

図5 ヒントカード

また、実際の授業では、トピックに応じて付箋紙を活用しながら、図6・7のように活用を図っていく。

TOPIC

①最初の C あなたが見たり聞いたりした情報・調べた情報・におい、味何でも!

1 アメリカ出身 6/9 好きな食べ物(フルーツ) 柿

2 住んでいる所 好きな数字

ちたん 2

② メモで書いたことをつなぎ合わせて、英語で文を作ってみよう!

He is from America.  
He lives in chatan.  
His birthday is June 9th.  
He likes number 2.  
He likes persimmon.

③演習しましょう!

Do you know Mr. Dan?  
He is from America.  
He lives in chatan.  
His birthday is June 9th.  
He likes number 2.  
He likes persimmon.  
I respect him.

最後のCです! Check!  
①最初と最後にメインテーマが書かれていますか? Yes! One more try!  
②スペルミスはありませんか? Yes! One more try!

図6 「3Cシート」実際の記述例①

Challenge!

目標!

- スラスラ言えるようにする
- 発音に気をつける

Comment!

①相手の発表からわかったこと。  
④ ダン先生のことをよく調べて、ダン先生が好きな食べ物と知った。  
⑤ ダン先生は20歳で、けん西とかが好きだと知った。  
⑥ ダン先生は、ピカピカと石ころが好き、いぬとが大好き。  
⑦ 6月9日生まれで、知恵をそけいしている人だと思った。

②相手の発表の良いところ、アドバイス。  
⑧ 声が大変聞きやすかった。  
⑨ 内容がすごく伝わってきた。  
⑩ 発音が上手! すごい!  
⑪ 思っている事を分かりやすくまとめた。

今日の目標の「発音に気をつける」と「スラスラ言えるようにする」に気を付けて発表することができたと思う。  
次も頑張りたいです!

図7 「3Cシート」実際の記述例②

(3) 「3Cシート」の活用

北尾倫彦 (2011) は、これからの英語の授業計画について、「授業の組み立ては、逆向き設計 (backward design) が有効である」と述べている。逆向き設計とは、ゴールから順に段階を追って指導内容を検討していく方法である。これまでの「この単元の内容を教える」という授業から、「この力を付けるための単元、この力を付けるための授業」等、目標を明確にもった単元設計が求められている。

そこで本研究では、「3Cシート」を活用する場を下記のように位置付けた。また「3Cシート」を効果的に活用する為には、前後の活動が重要であると考え、図8のようにまとめた。

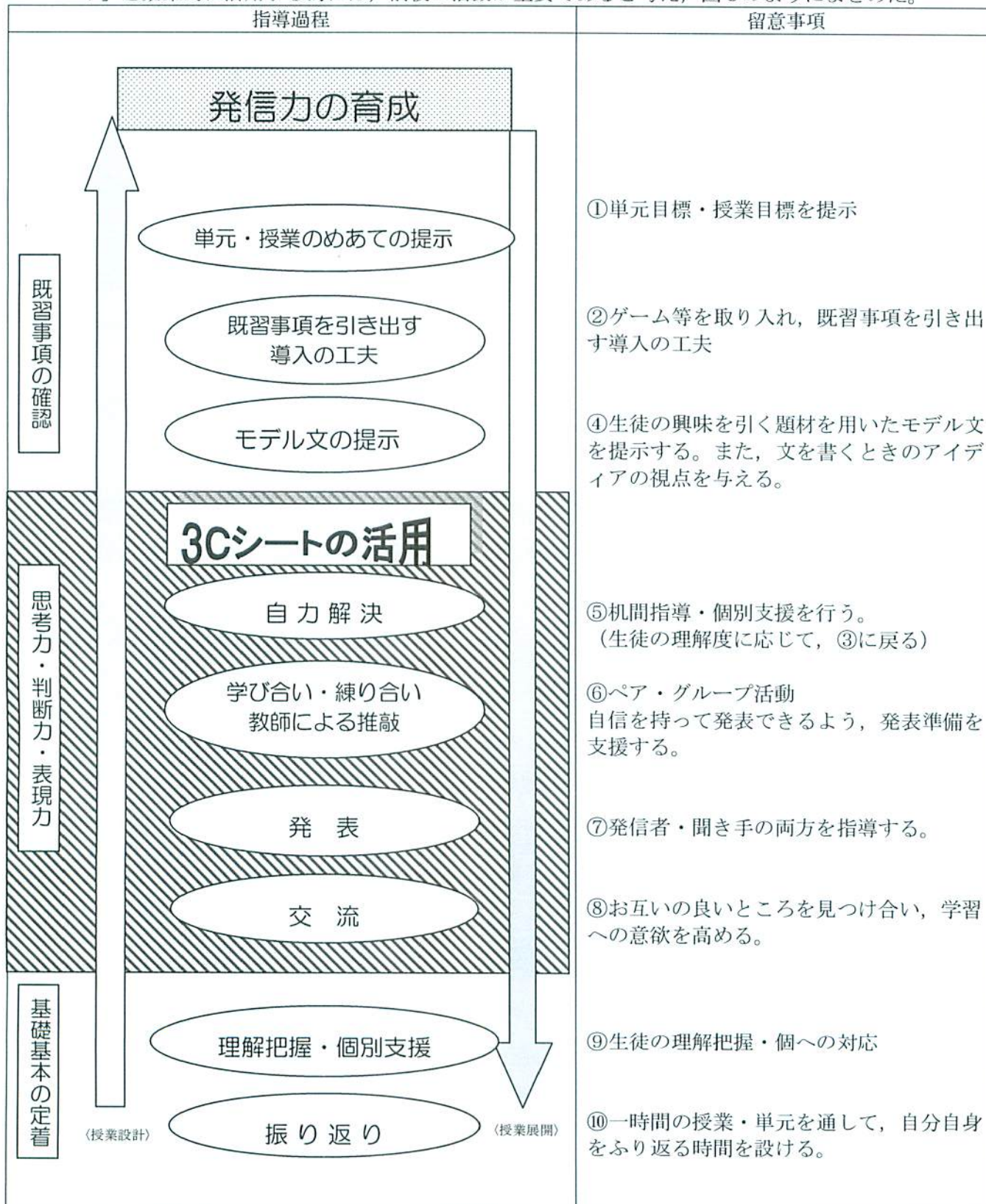


図8 3Cシートの活用例



## VI 指導の実際

### ○授業実践① (1年生 11月7日実施)

- 1 単元名 Sunshinel Lesson 7 Halloween
- 2 単元目標
  - ・間違いを恐れず積極的に書いている。
  - ・“What’s this?” “Who is?”の質問に英語で答えることができる。
  - ・ハローウィンについて理解をすることができる。

### 3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
書くことにおける評価規準	①間違ふことを恐れず積極的に書いている。 ②辞書を活用して書いている。	①文法に従って、正しく書くことができる。 (適切な筆記) ②場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。	①ペアの文を読んで、理解することができる。	①状況や場面にふさわしい表現を使っている。 ②ハローウィンについて理解している。

#### (1) 単元観

本単元では、“What’s this?”「これは何？」や“Who is he?”「彼は誰？」等、日常会話の中でもよく使われる表現を扱う。そのため書く練習や口頭練習を取り入れ、基本フレーズを定着させていきたい。本単元で習う表現は、外国の文化について尋ねたり、自分の国や出身地の文化について説明したりするなど、国際理解を深めるきっかけとなる大切な表現である。また、本単元の話題の中心はハローウィンであり、外国のお祭りや行事を知ることが、その国の歴史や文化を知る上で非常に重要である。沖縄のお祭りなどと比較させながら、異文化理解を深めていきたい。

#### (2) 指導観

生徒は小学校の外国語活動で、“What’s this?”の音声には慣れ親しんできている。本単元の目標文は、“What’s this?”の質問に“ It’s a pen”と質問された物の名称を答えることである。しかし今回は、小学校での外国語活動で音声に親しんでいることを踏まえて、もう一步踏み込んで指導していく。設定としては、外国人に沖縄の食材や物について聞かれた事を想定し、それについて“ It’s ~”と英語で説明できるよう指導していきたい。生徒は英語を書くことを苦手としているため、2文以上書くことを目標に支援していく。

#### (3) 単元のねらい

	ねらい・活動	「書くこと」の評価規準との関連	評価の方法
1	○本単元で身に付ける文の構造や大まかな内容を知る。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ハロウィーンの知識を問うゲームを行う。	エ②	ワークシート
2	○They を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文を通して、they の使い方を理解する。 ・they を用いた文を使えるよう練習する。	ア①	活動の様子
3	○疑問詞 what を用いた文の構造を理解する。 ・教科書を通して、What を用いた疑問文の使い方を理解する。 ・What の使い方、日常会話で使用頻度の高いフレーズを練習する。	ア①②	活動の様子
4 検証 授業 ①	○疑問詞 What で質問された時の答え方を練習する。 ・与えられたトピックに対して、キーワードとなる言葉をメモにして書く。 (例) 見た目、におい、聞いたり調べたりした情報等 ・メモした日本語を英語に直し、文を書いていく。その際、必要に応じて辞書を活用する。	イ①② ウ①	後日テスト
5	○疑問詞 who を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文を通して、who の使い方を理解する。 ・who で質問された時の答え方を練習する		
6	○本単元のまとめ 自己評価		



(4) 本時の指導計画

	Teacher's and students' activities	指導上の留意点	生徒の反応
導入	<p>1 warm up 一問一答英会話 チャンツ</p> <p>2 Game "What's this?" 既習事項を引き出す 目隠しをし、箱の中の物に触れそれが何か考える。解答者以外は、その物に対してのヒントを解答者に教える。</p> <p>3 基本文の説明 What's this? It's a Tofu. It's a Japanese food and soft.</p>	<p>楽しい雰囲気を作るよう心がける。</p> <p>・見た目の色や、形について、既習事項を使ってヒントを出すよう支援する。</p> <p>・生徒が表現したかったことを英語にして文章を作っていく。</p>	<p>「今日の授業何するんだろう？」 「先生チャンツしたい！」</p> <p>「ドキドキする！」 「あ〜四角って英語で何ていうかわからん！」 「白いは white だよ」</p> <p>「四角は square っていうんだ」 「It's を使って文にするんだ」</p> <p>「できるかな・・・」 「おもしろそう！」</p>
展開	<p>4 本時のめあての確認 津堅や沖縄の文化を英語で発表することができる！</p> <p>5 活動【書くこと】ペア活動 場面設定をする。 「津堅島に来たALTの先生は質問があるそうです。質問は4つあるので、どれか一つ選んで答えて下さいね」  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">もずく</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ニンジン塔</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三線</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゴーヤー</span> </div> </p> <p>6 「話すこと」② 「あなたは友達と歩いています。そこでばつたりとALTの先生に会いました…」 自分たちの英文をスキットの中で表す。</p>	<p>・いろいろな意見が出るように支援していく。 ・モデル文で与えた視点を意識させる。</p> <p>・スキットの最初の方で、前時の既習事項を覚えているか確認する。</p>	<p>「難しいトピックだな」 「もずくって健康てきだよ」 「ゴーヤーは苦いって教えよう」</p> <p>「もし、伝わらなかったらジェスチャーでも表現しよう！」 「外国人ってチャンプルーわかるかな？」</p>
まとめ	<p>7 ドリル【読む】 ワークシートの問題に取り組む</p> <p>8 ふり返り 本時の目標文をもう一度確認する宿題</p>	<p>・個別支援</p> <p>・理解把握</p>	<p>「今日のスキット楽しかったね」 「次は、ジェスチャーをいれよう」</p>

(5) 授業後の反省会より

検証授業①では、一時間の指導の流れを「説明→表現活動→練習問題」とし、既習事項を活用しながら発信力を育成する授業展開を試みた。通常の活動より時間はかかったが、ペア同士で話し合う場が増え、辞書を活用する場面も多くみられた。また、日常で起こりうる場面を設定し、相手意識・目的意識を明確にしたことで、文を考えている最中に、「ALTの先生は、チャンプルーってわかるかな」等、相手を意識したつぶやきが聞かれた。授業後に生徒が書いた文章を見てみると、語彙数、文の数ともに増えており、特に意欲の面で大きな変容が見られた。しかし一方で同一文型が何度も使われ、自分の思いが述べられていない等、内容面に課題を感じる。

そこで検証授業②では、英文の「序論→本論→結論」の文章構成を意識させ、生徒が論理的に思考し、文を書いていくことができるように、ワークシート(3Cシート)を工夫した。

授業実践②(1年生 2月7日実施)

(1) 単元名 Sunshine 1 In your words(総合的な活動) 第三者を紹介しよう

- (2) 単元目標
- ・間違いを恐れず積極的に書いている。
  - ・これまでの既習事項である be 動詞 や can を用いて、身近な人を英語で説明することができる
  - ・紹介をする際に、場面や相手に応じて適切に表現を選択して書くことができる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
書くことの評価規準	①間違ふことを恐れず積極的に書いている。 ②辞書を活用して書いている。	①文法に従って、正しく書くことができる。 ②文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる (適切な筆記) ③場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ④内容にまとまりのある文章を書くことができる。	①ペアの文を読んで、理解することができる。	(言語についての知識) ①状況や場面にふさわしい表現を使っている。  ②文字や符号などを使い分ける知識を身につけている。

(4) 単元計画と評価

	ねらい・活動	本課の評価規準との関連	評価の方法
1	○本単元で身に付ける文の構造や大まかな内容を知る。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○難しい言葉を日本語で言い換える練習をする。 (例)「栄養が一杯詰まっている」→「健康的」 healthy. 「性格がとてもよい」→「優しい人」 nice	ア①	活動の様子
2	○英語の文章構成に沿って、文を書くことができる。 ・ブレンストーミングを行い、思いついた情報を付箋紙にメモを取ることができる。 ・与えられたトピックに対して、3Cシートを活用し、流れに沿って書く練習をする。 ・適切な文章構成になるよう文を並べ変える。	ア①② イ①③ エ②	後日テスト
3 検証授業 ②	<b>検証授業</b> ○自分の友達や先生を、外国人に紹介することができる。 ・見た目、性格、趣味等、人物を紹介する時の視点で、多くの情報をメモし、活用している。 ・相手を意識し、適切な表現を選択している ・スピーチの練習をする	イ②④ ウ① エ①②	ワークシート 後日テスト
4	○スピーチ発表 ・発表の仕方と評価の仕方を理解する。 ・聞き手の生徒は評価表を記入し、スピーチを通して分かったことや、発表者へのコメントを書く		
5	○本単元のまとめ 自己評価		
後日	〈ペーパーテスト〉 ◇ALTを紹介文する問題 ◇場面を与えて適切な表現を書く問題	イ②④ エ①②	




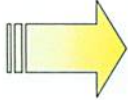





(5) 本時の指導

①ねらい

好きな友達や先生を外国人に紹介することができる。

②本時の展開

Teacher's and students' activities	指導上の留意点	生徒の反応
<p>1 warm up 一問一答英会話 チャンツ</p> <p>2 Game "What am I ? " 既習事項の確認</p> <p>ある動物や人物について、英語でヒントを出していく。次の活動につながるような英文を多く取り入れる。</p>  <p>3 めあての確認</p> <p>自分の好きな友達や先生を外国人に紹介しよう！</p> <p>4 基本文の説明</p> <p>教科書で取り上げられているイチローについて、みんなで知っている情報を出し合う。</p> <p>「イチローについての説明文をみんなで作ろう！」</p> <p>モデル文の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>I like Ichiro Suzuki. He is a baseball player He is 38 years old. e.t.c</p>  </div> <p>5 言語活動【書くこと】 3Cシートの活用 3Cシートの順に書きすすめていく。</p>	<p>・楽しい雰囲気を作るよう心がける。</p> <p>・既習事項の理解を確認。本時で使用されそうな表現を意図的に取り上げていく。</p> <p>・相手意識、目的意識を明確にする。</p> <p>・職業や年齢な等、いろんな情報がでるよう支援する。</p> <p>・モデル文を提示し、「人物」を紹介する時の視点を再確認する。</p>	<p>「she だから、女性の事だ」 「can の意味は〜できるだよな？」 「famous って、どういう意味だっけ？」</p> <p>「〇〇先輩にしよう」</p> <p>「イチローは野球選手だよ」 「何歳だっけ？」 「今38歳だと思う」</p> <p>「見た目や身長も言った方がいいよね」</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>良い特徴を伝えよう！</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>留学って、英語で何ていうだろう？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>「最初のC」トピックについて意見を出し合う。ペアと意見を交わすことで、付箋紙の量が増えていく。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>「書いてみようのC」 辞書の活用</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>教師の添削</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>声の大きさや発音を確認し、相手に伝わるように、ジェスチャーや表現方法を指導する。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>「書いた後のC」お互いの文を推敲する。スペルのチェックやリストの活用。</p> </div> </div>		
<p>6 自己評価</p>	<p>「次も頑張りたい」</p>	



## VII 仮説の検証

### 1 具体仮説①の検証

表現する場において、具体的な場面を設定し、スキット・スピーチ等の言語活動やペア活動を取り入れることによって、自らの考えや思いを発信することができるであろう。

具体仮説①では、検証授業①、検証授業②のスキット・スピーチ活動やペア活動を通して「発信力」を育成することができたかを、授業の様子、ワークシートや自己評価の記述・文章数の変化から検証をおこなう。

#### (1) スキット・スピーチ活動から

##### ①授業の様子・ワークシートの記述より

検証①では、「ALT の先生に津堅の食べ物や文化について質問される」という場面を設定した。文を書く場においてペア活動を取り入れることで、「ALT の先生はチャンルーわかるかな?」「食べた事ないかもしれないから、味も伝えた方がいいんじゃない?」など、相手を意識して話す様子がみられた。

その結果、食べもの見た目や味など詳しく説明したり、図10のように相手を意識して、自分の考えを発信する様子が見られた。

検証②では第三者を紹介する文を書いた後、スピーチで発表する活動を取り入れた。自分の好きな友達を、その人物を知らない人に紹介するという場面を設定したことで、その人の性格や内面についての記述する様子も見られた。

また、アイデアを出しあう活動から始まる為、英語が苦手な生徒も積極的に参加していた様子が見られたことから、発信力を育成するだけでなく関心・意欲・態度を高めることにも効果があったと考える。



図9 ワークシートを記述している様子

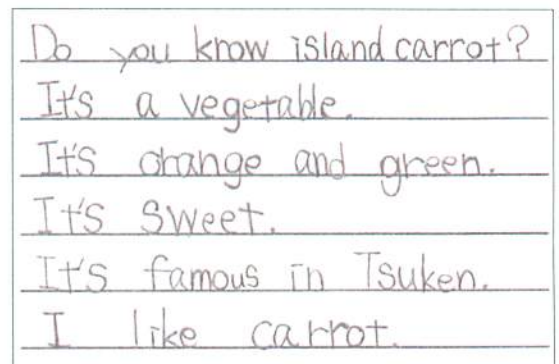


図10 「島人参」についての記述

##### ②実際の発表の様子から

検証①の実際のスキットの場面では、「友達と歩いていたら、道でばったり ALT と出合った」と、より具体的に場面設定をした。スキットに移る前にペアで相談し、「ジェスチャーをいれよう」「声を大きく」など話し合う様子が見られたことから、積極的に発信したことが伺える。検証前のアンケートでは、発表活動に対し「とても苦手」と答えていた男子生徒2名だが、スキット本番では声も大きく表情豊かに演じていた。これは「書くこと」の段階で場面を意識し情景をイメージをしながら書いているため、自信を持って発信することにつながったと考えられる。

また女子のペアも、普段の授業では発表に対してあまり積極的な態度が見られなかったが、教師のアドリブの質問にも答えるなど、自分の考えを一生懸命発信する様子が見られた。

検証②ではスピーチ活動をとりいれが、どの生徒も伝える相手を意識し、声の大きさや読む速さに注意しながら、自分の考えや思いを発信していた。アイコンタクトを意識することの課題も見られたが、放課後や家で練習をし、本番の発表では5名中4名が原稿を見ずに発表するという変容もみられた。このことから、具体的な場面を設定し発表する場の設定をすることは、発信力の育成に有効であったと考える。

### ③自己評価やアンケートからみる気持ちの変容

授業後の生徒による自己評価やアンケートの記述より、スキット・スピーチ活動やペア活動を取り入れることで、自分の考えや思いを発信することへの気持ちの変化をみていく。検証前は、人前で発表することに対し「とても苦手4名」「苦手1名」と答えていたが、検証授業①②の後には全員が「楽しい」とえており、気持ちの面で大きな変容が見られた。

自己評価の中には、スキットについて「とても楽しかった。大会（市のスキットコンテスト）でも優勝したい」「他のペアのジェスチャーがとても参考になった。次の発表では取り入れていきたい」等、人前で発信することへの意欲の高まりがみられる。このことから、授業の中で実践的なコミュニケーションに繋がっているということを経験させる事は、発信することへのモチベーションを高めることに有効であると考えられる。

また、スピーチに関しても「緊張したけどその分楽しかった。次は発音に気をつけて、もっともっとスラスラ言えるようにたくさん練習したい」「〇〇さんの発音がとてもよかった。発音を教えてもらいたい」等、英語の発音について具体的な目標を挙げる生徒がでてきた。

またペア活動についても、生徒全員が「とても良い」と答えていた。その理由として「他の人の意見が聞けて、いろいろな発想が思いつく」と書いており、ペア活動は生徒の思考を促すことにおいても効果がみられた。5名中4名は「みんなで意見をまとめたり、みんなでやると楽しい」等、意見を交換することの楽しさについて述べており、授業の中で発信—受信の双方向性が図られ、その中で自分の意見を発信することの楽しさを実感したことが読み取れる。

表5 アンケートの生徒の記述より

生徒A	とてもだんごはなしかうとおもしろいから
生徒B	ただとてもきんちょうするから
生徒C	ペアのほうか、自分以外の意見も聞けるし、みんなでやるのが楽しいから
生徒D	みんなの意見をきけた。みんなでやるのが楽しいから
生徒E	ほかの人の意見がきけて、いろいろな発想が思いつく。

### ④文章数の変化から

スキット・スピーチ活動やペア活動を取り入れた事で、発信することに対する生徒の意識の高まりと比例し、文章の数において増加が見られた。図11は、検証前の「自己紹介をしよう」検証授業①「津壑の文化について英語で説明しよう」検証授業②「好きな友達や先生を英語で紹介しよう」のテーマにおいて、生徒5名の文章数を比較した。

検証前の自己紹介では平均して2文程度であるが、それ以降は文の量が増加していることがわかる。その理由として、場面を設定したことで伝える相手を意識し、より多くの情報を伝えようとしたことと、アンケートの記述にあったように、ペア活動を取り入れ意見を交わすことで、英語での表現方法を共有できたと考えられる。

これらのことから、スキット・スピーチ活動やペア活動を取り入れることは、生徒の意欲を高め、発信力の育成に効果的であったと考える。

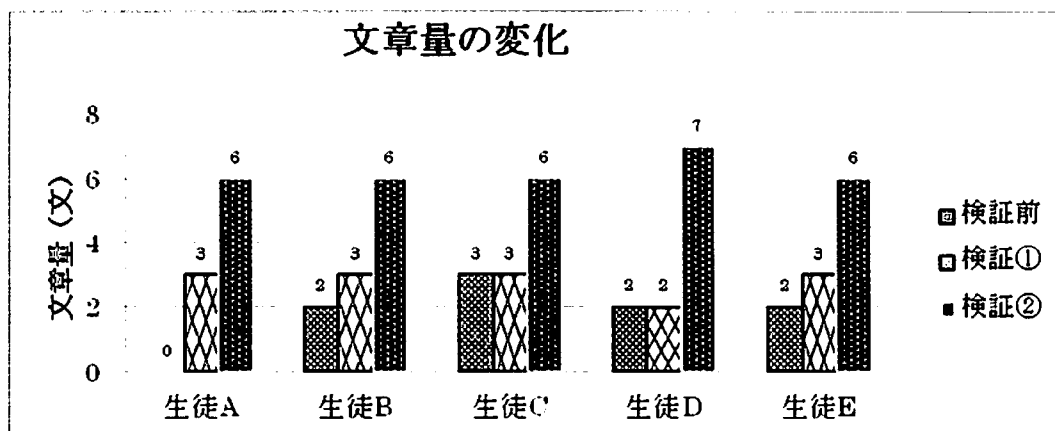


図11 個人の文章量の変化



## 2 具体仮説②の検証

自分の考えや思いを書く場において、3Cシートを活用し段階的に書く指導を行うことで、まとまりのある英文を書くことができるであろう。

3Cシートを活用し段階的に書く指導を行うことで、内容にまとまりのある文章を書くことができたか、生徒のワークシートの記述や使われている語彙数から検証していく。

### (1) 「書く前のC」の段階において

検証授業①では、情報を集める際にメモを取ることにより思考を広げようと試みたが、検証授業②では「書く前のC」の場面で付箋紙を使用した。メモを書きとる作業だと、平均して3つほどのメモであったが、付箋紙を使用すると平均5つ以上のメモを書いていた。これは、伝えたい順番にメモを並べる作業をしていく過程で、伝える相手や状況を意識させることにより更にアイデアが湧き、そのことが情報量の増加につながったと考えられる。実際の授業の中では、「見た目を言った方が、先輩を知らない人でもイメージが湧くんじゃないか」「先輩のスゴイ所を伝えた方が、好きという気持ちが伝わると思う」など、伝える相手を意識した発言が聞かれた。

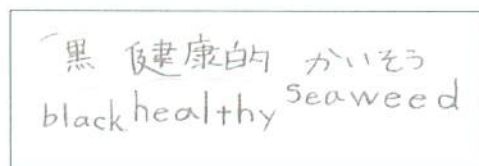


図12 検証①のメモ

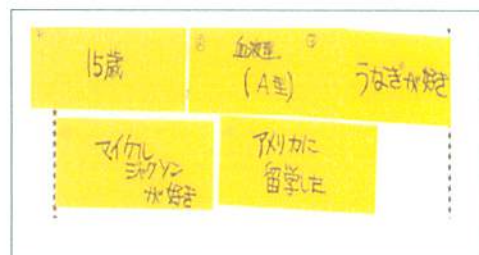


図13 「3Cシート」活用時のメモ

### (2) 「書いてみようのC」記述・構成の段階において

この段階では、メモしたものを伝えたい順番に英文に直していく。検証②では、発信力の育成には既習事項を活用する力も必要であることから、前もって生徒が予想しそうな質問を教師が考え、それをヒントカードとしてまとめ生徒に配布した。図13の付箋紙の中で「アメリカに留学した」とあるが、1年生は過去形について学習しておらず、どう表現するかをペアで悩んでいたが、既習事項のCanを使い「(留学したことによって) 英語を上手に話すことができる」に変換されていた(図14)。メモを英語に直した後、「序論→本論→結論」の文章構成を意識させ、ペアでチェックすることで、図15のように、文のはじめと最後にメインピックを意識したトピックセンテンスと結論文が付け足されていた。

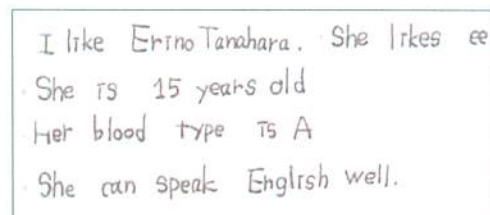


図14 付箋のメモを英語に直した段階

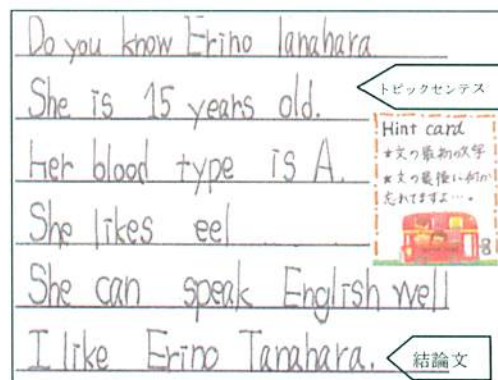


図15 ペア推敲後の文章の変容

### (3) 「書いた後のC」において

この段階では、推敲の視点をまとめたチェックリストを活用しペア同士の推敲を行う。しかし図15のように、文章の中に符号の忘れやケアレスミスがみられる。そこで教師が添削をし「文の最後に何か忘れてるよ」「主語が3人称の時の動詞は…」と付箋紙に書いた。教師が答えを教えるのではなく、ヒントを与えることで生徒が自らにミスに気付くよう促した。この作業を繰り返したことで、図16のように最終的にミスのない英文を書くことができるようになったと考える。その後のスピーチ発表においても、自分の文章に自信を持って堂々と発信する様子がみられた。

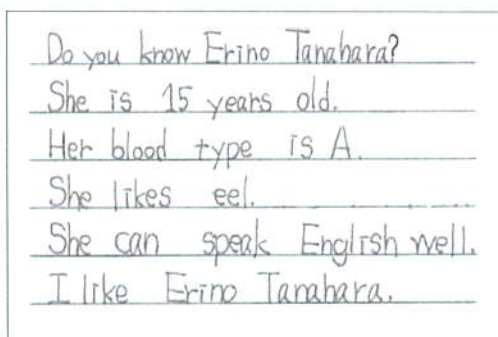


図16 教師の添削後の文章



(4) 文の内容から

検証授業②の後、内容にまとまりのある文を書く力について、個々の力を見るため「ALT を家族に紹介するスピーチを書く」というテストを実施した。

「3Cシート」導入前の文章と比べ、「3Cシート」導入後は「序論→本論→結論」の英文構成に沿って、内容にまとまりのある文章を書くことができていた。下記は評価Aの生徒と、大きく変容がみられた生徒を抽出し、「3Cシート」使用前と使用後の文書を比較する。

①「評価Aの生徒」の記述より

基礎基本が定着し、現在英検5級を取得している生徒である。検証①では、場面設定を明確にしたスキットを取り入れたことで、“Do you know Champloo?”など相手を意識した表現ができるようになっていた。「3Cシート」を活用した検証後のテストでは、教科書のモデル文が4文であったことから、目標を4文以上と設定した。最初の文が“Do you know Mr. Dan?”と疑問文でスタートしており、スピーチの聞き手を想定して文を書いたことが読みとれる。文の最後に接続詞のSoを使って結論を述べ、「序論→本論→結論」の文章構成に沿った内容にまとまりのある文章を書くことができた。また使用されている単語をみても“history”や“interesting”等、表現の幅も広がっており、文中で使用されているワード数も増えていることから、語彙力もついたことがわかる。

検証授業① (3Cシート使用前)	検証②後 (3Cシート使用)	word数の変化										
<p>It's a Go-ya.</p> <p>It's a vegetable and green.</p> <p>It's in champloo.</p> <p>Do you eat champloo?</p>	<p>Do you know Mr. Dan?</p> <p>He is from America.</p> <p>He likes soccer and Go-ya and history.</p> <p>He watches NHK on TV.</p> <p>He is interesting.</p> <p>So, I like him.</p>	<table border="1"> <caption>word数の変化 (評価A)</caption> <tr><th>段階</th><th>word数</th></tr> <tr><td>検証前</td><td>15</td></tr> <tr><td>検証①</td><td>20</td></tr> <tr><td>検証②</td><td>38</td></tr> <tr><td>検証後</td><td>37</td></tr> </table>	段階	word数	検証前	15	検証①	20	検証②	38	検証後	37
段階	word数											
検証前	15											
検証①	20											
検証②	38											
検証後	37											

②「最も変容の見られた生徒」の記述より

文を書くことを苦手としており、検証前の自己紹介を書く課題においては無回答であった。検証①の段階では、“It's~”を繰り返し使う等表現の面で課題が見られたが、「3Cシート」活用後においては、be動詞と一般動詞を混ぜた文章になっており表現が多様になったことがわかる。また文の最初と最後には、メインテーマである「ALT」についての自分の気持ちを発信しており、接続詞のSoを使って文を結論付けていることから、内容にまとまりのある文章になっている。検証授業①②の授業後のアンケートの中で「もっとスラスラ英語を書けるようになりたい」「単語を覚えたい」等「書くこと」への意欲の高まりと同時に、語彙力も増えていることがわかった。

検証前 (3Cシート使用前)	検証②後 (3Cシート使用)	word数の変化										
<p>It's Mozuku.</p> <p>It's seaweed.</p> <p>It's healthy.</p>	<p>③調書しましょう! I like Daniel.</p> <p>Daniel has a wife.</p> <p>He is from America.</p> <p>He is a teacher in Tsukan.</p> <p>He is 184cm tall.</p> <p>He likes Japan.</p> <p>So, I like Daniel.</p>	<table border="1"> <caption>word数の変化 (最も変容)</caption> <tr><th>段階</th><th>word数</th></tr> <tr><td>検証前</td><td>0</td></tr> <tr><td>検証①</td><td>10</td></tr> <tr><td>検証②</td><td>38</td></tr> <tr><td>検証後</td><td>37</td></tr> </table>	段階	word数	検証前	0	検証①	10	検証②	38	検証後	37
段階	word数											
検証前	0											
検証①	10											
検証②	38											
検証後	37											

これらのことから「3Cシート」を活用し段階的に書く指導をしていくことは、基礎基本が定着している生徒だけではなく、英語が苦手な生徒にとっても有効であったと考える。教科書のモデル文をまねるのではなく「自分の考えや思いを英語で発信できた」という喜びを実感させたことで、自己評価の中でも「次は日記を書いてみたい」や「単語をもっと増やしたい」など「書くこと」への意欲の高まりが見られた。そしてアンケートの中に「書くこと」が楽しいという理由の一つとして「考える力がつくと思う」「考えることが楽しい」と答える生徒もいたことから、思考力を高めることにも効果があったと考える。

## VIII 研究の成果・課題・対応策

### 1 成果

- 指導過程を工夫することによって、段階を踏んで書くことができ、自分の考えや思いを英語で発信することができるようになった。
- スキット・スピーチなどの言語活動を充実させることで、「書くこと」への意欲が高まり、発信することへの自信が見られた。
- 3Cシートを活用し、「序論→本論→結論」の英文構成を意識させる事で、内容にまとまりのある英文を書くことができた。

### 2 課題

- 授業以外で、生徒が自分の考えや思いを英語で発信する場の設定
- スキットやスピーチ等のパフォーマンス評価の工夫

### 3 対応策

- 学校行事と関連させながら、地域や授業外で発信する場を教科の年間指導計画に位置付ける。
- 学習指導要領の「話すこと」を基に評価項目を明確にし、ALTと共に評価する。

### 参考引用文献

- |             |                         |       |
|-------------|-------------------------|-------|
| ・北尾倫彦       | 2011『観点別学習状況の評価規準と判定基準』 | 図書文化  |
| ・小島博        | 2011『教師力アップへの挑戦』        | 教育出版  |
| ・矢野淳        | 2011『指導と評価』             | 図書文化  |
| ・渡邊寛治       | 2011『指導と評価』             | 図書文化  |
| ・文部科学省      | 2009『中学校学習指導要領解説 総則編』   | 文部科学省 |
| ・文部科学省      | 2009『中学校学習指導要領解説 外国語編』  | 文部科学省 |
| ・文部科学省      | 2008『小学校学習指導要領解説 国語編』   | 文部科学省 |
| ・三浦孝        | 2006『ヒューマンな英語授業がしたい!』   | 研究者   |
| ・Edgar Dale | 1969『経験の円錐』             |       |